

ふじみさらダボール子育て情報

「遊びは学び」

令和2年9月16日号

板橋富士見幼稚園



遊びの繰り返しは、言葉のため込み

子どもをじっと見ていると、毎日毎日、その場で、何に対しても一生懸命。遊ぶのも、人を呼ぶのも、食べるのも、着替えるのも、とにかく一生懸命です。

このような姿を見ていると、一つ一つの遊びや、したいことを繰り返しながら、ぼそぼそと、なにやら「つぶやき」をしている姿に出会います。

1歳半ごろから、親のしていることを真似したり、言葉を聞き取ると同じに繰り返したりするようになります。何度も同じ言葉を言っている時には、その言葉を親も繰り返してあげると、通じたことを確認してつぶやきが止まります。言葉を覚え始める時期は、どの子どももこのように同じ言葉を何度も繰り返して、誰かが受け止めてあげると、通じ合えたことを確認できるのです。



大切なのは、聞き流さないで必ず応答してあげることです。

色々な所で特有に使われる言葉は、その環境の中にないと使われません。つまり、子どもの言葉(語彙)をため込ませていくためには、多様な環境と接していくことが大切です。

例えば家の中で、スマホを与えるだけでは、その環境に触れたことにはなりません。なぜなら、応答し合う環境に無いからです。

先程お話しました通り、つぶやいた言葉に対して、共感してあげる人が必要となるのです。そして何よりも大切なことは、色々な世界観に触れさせて、その環境で使う言葉を沢山受け止めさせることです。どんな小さな場所でも、ともかく参加して、その場で使われている言葉を、親子で受け止め合うようにすると、語彙が豊かになっていきます。コロナによって、なかなか新しい環境に連れ出すことは難しいかもしれませんが、そんなときは絵本の世界を楽しむのも一つです。親子で対話しながら、絵本の中で使われている言葉を一緒に繰り返してあげることによって、獲得していきます。できる限り心ときめく環境で遊ぶことが、語彙を蓄える秘訣です。